本土の闘いもきびしい
復帰後にそなえ準備

全軍労オルグ団報告書

去る三月、来年された沖縄全軍労オルグ団から報告書が寄せられました。率直な総括の中からつぎの闘いへの決意がうかがわれます。ここに全文を紹介します。

われわれ全軍労オルグ団五名（団長島袋光男）を迎えて、大地評をはじめ三池労組あげての歓迎をうけ心から感謝申し上げます。早く報告書をだしてもらいたいとの要請がありましたが帰沖後暫定協定協約の件で、多忙をきわめおくれたことを深くおわびいたします。

ここにのべることがらは、われわれオルグ団が率直に感じたことですので、皆様方のオルグの上から好ましくない指摘のしかたもあると思いますがご了承下さい。

沖縄と大牟田はにている

大牟田市と三井の過去八十年の歴史と、戦後の沖縄、米軍支配の二十五年の歴史が双方に多少のちがいはあっても非常によくにていることを、大牟田にいってはじめて知りおどろかされました。

(1)三井も米軍もその地域において絶対的な権力をもっている。

(2)三井も米軍も権力を傘に悪らつな低賃金政策を強行している。

(3)三池も全軍労も体制側の合理化による大量解雇のウラには組合次元をこえた日本政府相手の政治問題である。

(4)大牟田のみなさんが、アメリカ人や基地を肌で感じきれないと同様に、われわれ沖縄に住む労働者も独占資本の悪らつさや恐ろしさを肌で感じきれない。

(5)ほぼ同じ悪条件下で闘っている労働者こそ共感を得やすいし、連帯を深めるため交流をかさねるべきだ。

三池からまなぶもの

みなさんが第二組合のように分断工作にもまけず、過去十年闘ってこられたエネルギーと、あくまで人間として労働者として、賃金格差などで弾圧を受けながらも正しい姿勢を保持し、闘っている姿を見ておどろきにちかいほどの敬服とエリを正さざるをえない気持になりました。

主婦会の方々の熱心な活動にはただ、ただ頭をさげたくなりました。主婦として家庭を守り、アルバイトをして夫を助け、妻として夫につくし、母親として子供の世話をし、その上、主婦会の活動と一人で三役も、五役も、ただ言葉では表現できず感心させられ、敬服するのみです。

現在は主婦会が三池労組の中心的存在であるような感を抱きました。

みなさん方の社宅と事情がことなる私たちの所へどのような方法で組織指導をしていくか、問題があるようです。

第二組合におどろく

大地評の各単産をまわり、第二組合の量的存在におどろき、正直がっかりするとともに、今後のお互いの闘争のきびしさを知らされ、われわれ一同がんばらなければと今後一層の活動と闘う決意をあらたにしました。

まだ、まだ無感心も

オルグ全般を通じて大地評をはじめ、三池の指導部がいかに下部組織に七〇年安保闘争と沖縄問題を理解させようとご苦労なさっているかは感じたのですが、われわれオルグ団が地域分会や家庭にまで入りこんでいくとまだまだ理解していない人、または無関心のような方も見うけられました。

われわれオルグ団の説明情宣も不十分でありましたけど、十分な時間がなく、おちついてできなかったことが残念です。

目についたつかれ

集会で集まりがよくなかった所もあり、ところによっては私たちが沖縄からきた全軍労オルグ団だと知らないで集会に参加した人もいました。

三池では交流して下さった方々の熱心さと、その反面生活からくるものなのか、日常の労働からくるものなのか、いろいろな集会が多すぎるのか、あるいは平均年令の高さからくるものなのか、種々問題はあると思いますが、集まった方々の顔から疲労の色がうかがえました。

本在のみなさんへの注文

全般的にまだまだ沖縄の事情や内容が知られていない（沖縄の側にしても同じ）反戦・平和のたち場から平和憲法を守り、闘い抜くという点が下部には浸透していないのではないか。これは沖縄でも頭痛の種です。そのほか大牟田も沖縄も同じような組織問題を抱えている（これは全国的にそうだけど）

また、本土側の労組全般にとって、組織の拡大とできるかぎりの統一が必要ではないでしょうか？いまのようにストを打っても資本の側にあまり通じないようでは、組合の闘う力が半減されるし、資本側は圧力を感じないのではないか？

私たちの闘いは人間の叫び

私たちの中にも全軍労という組織を過大評価している役員もいることは事実です。全軍労の組合員の大多数が階級意識で銃剣闘争を闘ったのではなく、人間として労働者として生活保障をかちとるため、生きるため、弱い意識の労働者でも立ち上がらざるをえなかったこと。布令二十六号と人事規則、職就申し込み書などで権利をハクダツされ、いじめ抜かれた労働者の人間の血の叫びであったことを情宣してもらいたい。

私たちオルグ団、一応日程が終わって感じたことは、交流が終わった、オルグが終わったということより、スケジュールを消化したという感じが強く、あまりにこま切れスケジュールで、オルグ団五名がその日その日あつまって反省する機会もなく、五名がみんなバラバラのうちにオルグ日程が終了してしまったようです。

以上十項目、ただ感じたことを率直に書いてみました。

全軍労オルグ団々長　島袋光男　外一同

詩 ふるさとの歌

四山　出雲タエノ

（一）
田んぼの道に咲いた花
れんげの花を思い出す
今も可愛いく咲くだろか
幼きふるさと思い出す

（二）
土手の小路に咲いた花
すみれの花がむらさきに
今も小さく咲くだろか
幼きふるさと思い出す

（三）
心の岸辺に咲いた花
一重椿に八重椿
今もきれいに咲くだろか
幼きふるさと思い出す

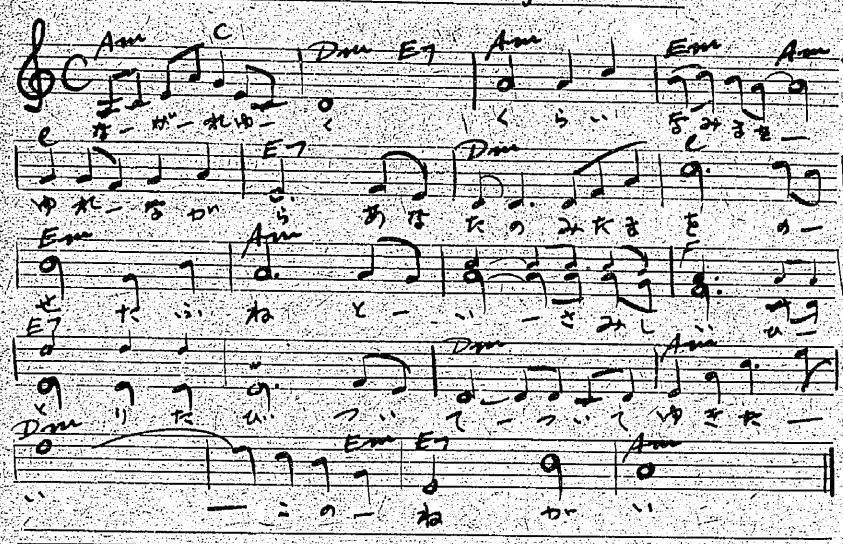
（四）
山の坂道咲いた花
いちごの花を思い出す
今も真白く咲くだろか
幼きふるさと思い出す

×

筆者は四山社宅三十五棟

おしよろ舟

作詞 小石勇
作曲 永江



四山ギターサークルの永江さんは、昭和43年9月会社の保安サボで殺された故小石勇さんの奥さんスエノさんが作つた詩「おしよろ舟」に作曲をした。この歌は四山ギターサークルによつて演奏され発表された。

「おしよろ舟」を演奏し録音する四山ギターサークル

三池と三里塚
―「やがてくる日に」をよんで―

千葉　小川美智子

千葉県の主婦小川美智子さんからつぎのようなお便りと詩が送られてきました。なお、小川さんの住所は千葉県香取郡多古町染井三一八です。

先日はさっそく詩文集をお送り下さいましてありがとうございました。

ページをくりながらみなさんの闘ってきた歴史と真実のさけびにふれてとても感動しました。私は従業員十五人程の裁材工場と建築請負を業とする家の主婦です。日常は家事と二人の子どもの育児と工場の人々へのお茶くみにあけくれています。私の主人も父も社会党員ですが、殻売をやりながら闘うことのむつかしさをとくに感じている様子です。

いま私の住んでいる町のすぐ隣りで三里塚国際空港反対闘争が闘われています。この現地には主人の友人であり同志であるKさんという人が三年来常駐して闘っています。つい最近、私はKさんに出合い現地の本当の姿と、この三年間の闘いと、そしてKさん自身の闘いを通した生き方を知りとても感動しました。そのお話の中に三池のこともありました。

私たちはここに闘いのあることを知っていながら、他人事でない現地のありさまを知りながら、これまでなんと遠い位置にいたことかとKさんの闘いを通じて反省しています。

二月十九日の強制立入り測量のときにも父も主人も阻止行動に参加しました。でも捕われたらどうするか、明日からどうしたらよいか、そんな気持が私になかったとはいえません。でもこの日常で私にできることはなんなのか、私はどうしたらよいのか、主人に答えをもとめながら問いつづけています。

三池で闘うお母さんたち、そのたくましさ、その汗と声はそのまま三里塚の現地で団結小屋にたてこもるお母さんたちの声だと思いました。その闘いに涙をこぼしながら、Kさんの生き方に感動しながら、私は現地のお母さんたちとスクラム一度組んだことさえないのです。それは逆に、みいけの詩文集を読んで涙をこぼしながら何もできずにいる私なのです。

私はこれから知ることによって学ぼうと思います。詩文集に接することができたことを心から感謝しています。同封した詩は立入り測量の日に書いたものです。拙ないものですが私の心を同封します。

燃える春に

銅肌の大地
白くかわいた大地
無惨に切りくずされた大地
みどりを消し去った大地
砂塵をまきあげ　今
大地は怒っている
ふつふつと怒りの炎をあげて
燃えている

かって
時の権力の遊びの原は
人間の血と汗と涙を糧に
黒土のやわらかな大地に生れかわった
豊かなみのりを生み
人間の手に人間の営みを生んだ
営々としてつちかった
ひとにぎりの土
ひとにぎりの種
ひとにぎりの草の実に
人は生命をたくしてきた
このささやかな営みを
このささやかな営みが
今
再び奪いとられようとしている
その巨大な黒い翼に

老人よ
父親よ
母親よ
若者よ
少年達よ
そして幼子も
その怒りを炎に変えて起った
その力よ

炎は炎をよび
ひろがっていく　大地に深く
消されても　消されても
消し去ることの出きない
その炎に
黒い翼を焼きつくすまで

人は哀しみの炎を燃やし
人は怒りの炎を燃やす
芽吹く春
大地は燃えている